



故從三位勳三等清水精三郎敘勳ノ件  
 右謹テ裁可ヲ仰ク  
 昭和九年十二月七日  
 内閣總理大臣岡田啓介



内閣



賞勳局第三〇一號

外務部 五〇

昭和九年十月七日  
賞勳局  
勳章  
勳章  
勳章

昭和九年十月七日

内閣總理大臣 山

賞勳局總裁



故從三位勳三等清水精三郎儀ハ明治二十七年八月任領事官補以來累進シテ大正十年十月特命全權公使ニ任シ秘露國駐劄被仰付同十四年三月退官ニ至ル迄在官三十年餘ニ及ヒ此ノ間終始奮勵職務ニ應リ就中ペルノ國駐劄中日本國ペルノ國間修好通商航海條約

賞勳局

締結ニ關シ帝國全權委員トシテ任國政府ニ對シ直接交渉ノ衝ニ當リ幾多ノ困難ヲ排シテ大正十三年九月三十日遂ニ右條約ノ調印ヲ見ルニ至ラシメ以テ兩國間修好通商航海ニ關スル諸般ノ事項ヲ確立スルヲ得セシム尚退官後昭和三年四月以來日濠協會專務理事トシテ又昭和五年十月以來日加協會理事トシテ日本及濠洲並日本及カナダ間親善ニ盡カシタル等功績顯著ノ者ニ候



處本月五日死去セル趣ニ付此際特ニ同  
日附ヲ以テ勲二等ニ叙シ瑞寶章ヲ  
授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

内閣

裏面白紙

從三位勳三等清水精三郎儀別記ノ通功績有之候處本月五日薨去致候  
ニ就テハ此際右積年ノ功績ヲ御表彰被遊特ニ生前ノ日附ヲ以テ頭書  
ノ通敍勳被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

昭和九年十二月六日

外務大臣 廣田 弘



外務省

勳二等瑞寶章 從三位勳三等（旭）清 水 精三郎

右者明治二十七年八月任領事官補以來領事・總領事ニ歷任シ「ホノルル」・香港・「ヴァンクーバー」・「シカゴ」・「オッタワ」等ニ在勤シ明治四十二年四月外務書記官ニ任セラレ同年六月大臣官房會計課長ノ職ニ就キ大正二年十一月更ニ總領事ニ轉シ「インド」ニ在勤シ大正六年六月高等官二等ニ敘セラレ次テ大正十年十月特命全權公使ニ任シ高等官一等ニ敘セラレ祕露國駐劄被仰付爾來大正十四年三月依願本官ヲ免セラルルニ至ル迄高等官トシテ在官三十年餘ニ及ヒ此間終始奮勵職務ニ膺リ我通商貿易ノ保護伸暢上貢獻セルハ勿論國交増進上ニ寄與セル所亦鮮少ナラス就中同人カ「ベル」國



駐節中日本國「ベル」國間修好通商航海條約締結ニ關シ帝國全權委員トシテ任國政府ニ對シ直接交渉ノ衝ニ當リ幾多ノ困難ヲ排シテ大正十三年九月三十日遂ニ克ク右條約ノ調印ヲ見ルニ至ラシメ以テ兩國間修好通商航海ニ關スル諸般ノ事項ヲ確立スルヲ得シメタルハ特筆スルニ足ルベキモノトス

即チ當時「ベル」國政府ハ明治二十八年三月二十日調印ノ兩國間通商航海條約ヲ以テ締結後長年月ヲ經タル爲今日ノ事態ニ適合セサルコトヲ理由トシ大正十一年十月十一日附ヲ以テ其廢棄ヲ通告シ來レルカ之ニ依リ右條約ハ翌十二年十月十日限り失效スヘカリシモノナリ而モ右「ベル」國政府ノ廢棄理由ハ單ニ表面上ニシテ實ハ是ヨリ先道路服役問題・外國人登錄稅問題等ニ關シ彼我ノ間ニ紛議ヲ

生シ帝國ハ每次條約規定ヲ援用シテ抗議ヲナシ其結果我方主張通解  
決シタルコトアリシヲ以テ「ベール」國政府ハ日本移民ノ増加ト共  
ニ右條約ヲ不便トシタルノミナラス同國外務大臣ハ此機會ニ於テ通  
商條約中ニ「モンロー」主義ニ關スル條文ヲ設ケントノ野心アリタ  
ル等ノ事由存シタリシカ如シ

事情右ノ如クナルノミナラス「ベール」國ハ日本トノ條約訂立ニ依  
リ通商交通上何等利スル所ナク却テ日本ヨリ在留日本移民ノ保護ニ  
關シ種種ノ交渉ヲ受クルニ至ルノ不便アルヲ以テ新條約ノ締結カ如  
何ニ困難ナルカハ何人モ疑ハサル所ナリシト雖モ在「ベール」多數  
日本移民ノ休戚上條約存立ノ一日モ忽諸ニ附スヘカラサルモノアリ  
シニ願ミ同人ハ此難局ニ處シ直ニ新條約締結ノ交渉ニ着手スルト共

めくれず

裏面白紙

ニ先ツ兩國通商條約關係ノ斷絶ヲ避ケテ本邦移民ノ地位ヲ安定ナラシムル爲暫定取極ヲ締結シ以テ先方ノ嫌惡セル條約ノ效力ヲ延長スルコト三度ニ及ヒ其間新條約締結ニ付或ハ「ペルー」國外相ヲ説得シテ其野心ヲ制シ或ハ同國大統領ニ謁シテ外相ノ欲セサル商議ノ進捗ヲ關リ以テ帝國主張ノ了解及貫徹ニ盡瘁シ二年有餘ニ亘ル不斷ノ努力ノ結果遂ニ我方ニ有利ナル條約ヲ締結スルヲ得タリ而シテ新條約ノ有効期間ハ五年ナルヲ以テ帝國ハ右實施後五箇年間本邦移民ノ入國居住並產業權所有權等ノ確保ニ關シ之ヲ有効期間既ニ滿了シ而モ上記入國其他諸權利ノ地位ニ付不確實ナル舊條約ノ存續スル状態ニ比スル時ハ甚々意ヲ強ウスルヲ得タルモノニシテ之レ全く同人折衝ノ努力ニ負フモノトス且同人ハ前記第三回暫定取極ノ失効期切迫



セルヲ痛ク憂惧シ既ニ確定セル歸朝期日ノ目前ニ迫レルヲモ順ミス  
一ベルー」國政府ト交渉ヲ重ネ大正十三年十二月更ニ第四回暫定取  
極ヲ締結シ以テ舊條約ノ效力ヲ新條約ノ實施期日迄延長セシムルニ  
成功シタリ

其後新條約カ一ベルー」國々内ノ事情ニ依リ批准手續甚タシク遷延  
シ漸ク昭和五年二月十九日ニ至リ批准書ノ交換ヲ了シタルニ拘ハラ  
ス此間兩國關係ヲシテ無條約國タルノ不利ヨリ免レシムルヲ得タル  
ハ敍上暫定取極ノ存シタルニ因ルモノニシテ同人ノ功勞洵ニ顯著ナ  
リトスヘク而シテ本條約ニ對シテハ本年十月五日「ベルー」國ヨリ  
一年ノ豫告期間ヲ以テ廢棄ノ通告ニ接シタルニ依リテ觀ルモ同條約  
カ如何ニ我國ニ有利ナルヤラ證スルニ餘リアリト謂ハサルヘカラス

加之同人ハ退官後昭和三年四月以來日濠協會事務理事トシテ又昭和五年十月以來日加協會理事トシテ日本及濠洲並日本及「カナダ」間相互ノ親善上ニ寄與セル所鮮少ナラス殊ニ濠洲又ハ「カナダ」ヨリ知名ノ人士ノ來朝スル毎ニ常ニ之ニ接シテ廣ク本邦ノ事情ヲ紹介シ彼我意思ノ疏通ヲ圖ルト共ニ交誼増進上ニ努力シ例ヘハ昭和五年七月「ニュー・サウス・ウエールズ」知事「サー・ダドレー」、同年十月「カナダ」實業視察團及本年五月濠洲聯邦副總理大臣「レイサム」等各來朝ノ際ノ如キ同人ハ歡迎幹旋甚々努メ爲ニ是等一行ハ何レモ本邦ニ關シ好印象ヲ享受シテ歸國スルニ至レリ

右ハ實ニ相互ノ親和輯睦上ニ貢獻セルノミナラス直接間接彼我ノ貿易伸暢上利スル所亦尠ナカラサルモノニシテ同人カ多年邦家ノ爲盡



瘵セム功績寔ニ顯著ナリトス

外務省

裏面白紙

履 歴 書

府縣 清和縣 平民 原籍 清和縣大里郡大幡村大字代廿番地 舊姓名

清水 精 三郎

萬延元年十月廿五日生

年 號	月 日	任 免 賞 罰 等	廳 名
明治廿七年	八月六日	任領事官補	内閣
全	年十月十日	敘高等官七等	官内省
全	年十月十日	敘從七位	官内省
全	年七月六日	ホノルル在勤ヲ命ス	外務省
全	廿八年十二月廿一日	香港在勤ヲ命ス	全
全	廿九年十一月十日	任二等領事	内閣
		敘高等官六等 賜五級俸	
		香港在勤ヲ命ス	外務省
明治廿九年	十二月廿五日	敘正七位	官内省
全	三十年八月十八日	ウアンクーパー在勤ヲ命ス	外務省
全	年十二月廿二日	賜四級俸	全
全	三十三年六月十九日	官制改正別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ領事ニ任シ 現官等相當ノ官等ニ敘セラレ俸級從前ノ通	
全	卅三年三月廿一日	陸敘高等官五等	内閣
		賜四級俸	
全	年六月十一日	敘從六位	官内省
全	卅四年三月廿一日	賜三級俸	外務省
全	年六月廿七日	敘勲六等授瑞寶章	賞勲局
全	卅五年四月廿五日	賜二級俸	外務省
全	年四月十五日	晚香港在勤ヲ免ス	全

外務省







全十三年	十月十八日	特派大使トシテ参列被仰付	内閣
全十二年	七月一日	第一回國勢調査記念授與 <sup>章</sup>	賞勲局
		秘露國ニ於ケル「アヤクチヨ」戦争百年記念祭ニ	
		賜ニ級俸	
		秘露國駐劄被仰付	
全十年	十月廿四日	任特命全權公使	内閣
		叙高等官一等	
		千二百圓ヲ授ケ賜フ	
		大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ旭日中綬章及金	
		全 年 九月十六日 勅令第四百四號ニテ勅任總領事八年俸五、二〇〇円ト改正	
全 年 十一月一日	授旭日中綬章	賞勲局	
大正九年	四月廿八日	オタワワ在勤被仰付	
全 年 八月十八日	高等官々等俸給令中改正ニ付年俸五、二〇〇圓		
全 年 八月廿日	叙従四位		
全 年 八月廿日	叙従四位		
全 年 四月廿八日	シドニー在勤ヲ被免		
全 八年 一月廿八日	叙勲三等授瑞寶章	賞勲局	
全 年 六月廿日	賜一級俸		
全 年 六月廿日	賜ニ級俸	内閣	
全 六年 六月廿日	陸叙高等官二等		
	金八百圓ヲ授ケ賜フ		
	大正三四年事件ノ功ニ依リ旭日中綬章及		
全 五年 四月一日	授旭日中綬章	全	
全 四年 十一月十日	大禮記念章早授與	賞勲局	
全 三年 七月廿日	叙正五位	官内省	
	シドニー在勤ヲ命ス	外務省	
	賜一級俸		

外務省





急

外電 五〇号

人機密第七二四號

昭和九年十二月六日

外務大臣 廣田 弘

内閣總理大臣 岡田 啓介 殿

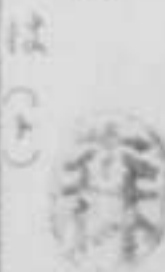
清水精三郎 敍勳ノ件

從三位勳三等清水精三郎 敍勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急可然御取  
計相成度此段申進候也



主査者 金澤 謙 呈原

別紙添附



裏面白紙

外務省